



株式会社 ダイナックス

自動車の摩擦機能部品（AT用クラッチ等）の新製品開発・設計から生産・製造・販売・納品までを一貫して行い、国内外のメーカーと取引をする。電動化対応製品「EV用インホイールモータ」や異業種のワイン事業への参入など「未来を今に」という企業スピリットをベースに、チャレンジ精神を発揮する企業。2023年で設立50周年を迎える。



誇れるものを作りたかったから

「安平町でワイン事業を始めることになったのは、感情的な部分はあった」と話す稲岡さん。

2018年に苫小牧市から安平町へ家族と共に引っ越して来た。移住して半年ほど経過した頃に北海道胆振東部地震で被災。地震だけが起因ではないだろうが、人口減少を一町民として目の当たりにしていると「盛り上げようと必死に活動している、まちの活気が衰退しているように見えた」と当時を振り返る。

3児の父親でもある稲岡さんは当時、社内でも新規事業の立ち上げを行う事務局の運営をしていた。「自分の子どももそうだけど、子どもたちが将来にわたって誇っていけるものを作り、築いていきたい」との思い

で動いた。もともと農業分野での事業展開を検討していたこと

もあって、そのときに現在圃場の管理を行っている高橋さんから「ワイン事業に挑戦したい」という声が上がったそう。これなら地域に根差し、地域と共に創り上げる文化・産業となるとして、今日に至る。

人の縁がないとできていない

農業分野における事業はこれ

までに無く、安平町でのワイン事業が初の試み。当然、農業を行う場所も持っていないため、ワイン事業を行いたいと言っても楽しい妄想で終わってしまう。

しかし、地元で長いこと農業をされている方との出会いや事業に対する賛同者、地域からの協力などがタイミング良く重なっていったことで、こうして試験栽培を行うことができたことに「ただただ感謝しかない」と話した。

ワイン事業のキーパーソン

元々はクラッチ開発のエンジニアだったが、今は社内で新規事業の創出などを手がける新領域創造部で部長の稲岡治さん。家族で苫小牧市から安平町に移住した年に被災。「町民としても、安平町で何か社会課題の解決に寄与する」という思いからワイン事業を安平町で行うことになった。2022年5月に締結した包括連携協定も稲岡さんなしではなかっただろう。

